第41回青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール審査員講評

図画部門の審査風景

作文部門の審査風景

審査員講評／作文部門

青森市立千刈小学校
教諭 長崎 雅仁

お米に関わる体験を通して、家族の温かさや周りの人々への感謝の気持ちが綴られた作品がたくさん寄せられました。

青森県知事賞に輝いた蛯澤太一さんの「自慢の手作り米」では、孫のために米作りを再開した祖父母の心意気に感銘を受けました。それを手伝う筆者の姿も立派です。

青森県教育委員会教育長賞の畑山慶治さんの「お米のパワー」では、田植えの手伝いの様子を丁寧に描写しており、その苦労がご飯をよりおいしくしていることに共感しました。

青森県農協中央会会長賞の駒沢吉紀さんの「米のあるせいかつ」は、どんな料理とも相性のよいご飯のおいしさを独特の感性で表現した作品です。

青森市立浪打小学校
校長 原子 雄治

お米を通し、自分を取り巻く方々への感謝が綴られた作品が多く、書き手の成長が感じられました。心に残った作品には、①自分の思いを素直に表現　②自分なりの独特な感覚を独自の言葉で表現　③目の前に場面が浮かんでくるような会話文　④自分の体験を詳しく描写し、その際に考えたこと　⑤将来の自分の姿について考えたこと　などが見られました。

コロナ禍ということもあってか、作品からは家族を大切に思い、そのために自分が頑張るという意気込みも伝わってきました。

読み手を意識することで、作品に説得力が出てきますから、呼びかける表現を使ってみるのもよいでしょう。

東奥日報社
編集局次長 兼 文化出版部部長
若松　清巳

1～3部のどの作品も、お米と一緒でかみしめるほどに味わいが増し、力があふれてくるようでした。各賞はわずかな差で決まりましたが、そんな中でも入賞作は、やはり書きたい人や物、出来事をじっくり観察し、それをどう感じたのかを自分の言葉で表現していたように思います。お米を作る人、届けてくれる人、調理してくれる人、一緒に味わう人、きっとみんな、お米が大好きなはず。食べる人みんなに「おいしい」と感じてもらいたいと一生懸命です。そんな人たちの心を表現した作文です。面白くないわけがない。書きたい人たちのことをもっと見つめ、思いを想像し、もっともっとすてきな文章で表現してください。できるはずです。

日本国語教育学会　理 事
青森明の星中学・高等学校　副校長
髙橋　光夫

おいしいごはんとの出会いだけでなく、お米作り、流通、消費の循環に大きな視点で取り組んだ作品がたくさんありました。指導された先生方に改めて感謝申し上げます。

さらに、ウクライナ侵攻、SDGsなどで、より顕在化された日本の食糧事情、様々な出来事に注目して、世界を俯瞰し、意見を持つことはとても大切なことです。お米、そして、日本という国を愛する心、日本人としての自己を再確認することに繋がります。

内容と共に、誤字脱字や文章表記、原稿用紙の使い方を含めた推敲、あるいは、体験、資料や文献などからの引用など、内容をさらに磨きをかける余地があります。さらなる向上を大いに期待しています。

審査員講評／図画部門

青森児童美術研究会
理　事　**大宮　賢吉**

第41回「ごはん・お米とわたし」の図画コンクールを審査いたしました。7階の広い会場には、多くの子ども達の絵が並んでいました。「お父さんの作ったお米はおいしいよ。」「ぼくも田植えの時は、苗を植えたよ。」と言う子ども達の声が耳に入りました。

さて、3賞について少し触れてみたいと思います。

●青森県知事賞　八戸市立西白山台小学校　3年　田村　唯
「ドライブではいつもおにぎり」

車の中でおにぎりを食べている一人ひとりの人物表現がすばらしい。「おにぎり」を運転中のお父さんのじゃまにならないようあげています。左側には、外の景色の木を横向きに描いておりドライブ中である事を巧みに表現しています。色彩的にも多くの色をうまく使って家族のよさを表しています。

●青森県教育委員会教育長賞　青森市立浦町小学校　5年　木村　倫都
「田んぼアートとぼく」

これまで「田んぼアート」を描いた作品はありますが今回の絵は抜群です。絵の中央のアートの女性像の描き方がすばらしく、又、行って見たくなりそうです。役場の台上で、きりっと立っているぼくの表現もとてもよい。位置も巧みに左の方に立っており、田んぼアートの女性像を真中に描いています。

●青森県農協中央会会長賞　八戸市立白銀南中学校　1年　松家　杏実
「みんなでご飯」

画面真中の女子中学生の人物表現が、中学生らしく的確ですばらしい。中央の女子は、左手でおわんをきちんと持ち、右手の箸の使い方も巧みに表現されています。2人の友達の人物表現も的確である。画面後方の鞄ボックスの描き方もていねいでよい。

青森児童美術研究会
理　事　工藤　玲子

今年は、応募点数が前年より少なかったものの、応募校数が増えて72校でした。お米・ごはん食の大切さを理解した多数の応募があり、嬉しく思いました。

題材は、学校給食や家庭での食事、田植え、稲刈りなど多岐にわたっていました。また、作品の内容は小・中学校ともに、おにぎりやごはんを楽しく食べている場面が多くありました。

●青森県知事賞　八戸市立西白山台小学校　3年　田村　唯
「ドライブではいつもおにぎり」

ドライブをしている車内でおにぎりを囲んだ楽しそうな雰囲気が伝わってきて、車で食べるおにぎりの味は格別だと感じさせる一人ひとりの明るい表情が印象的です。

唯さんならではの画面構成により、弁当箱の中の美味しそうなおにぎりをみんなで分け合う様子がわかりやすく表現された、心温まる作品です。

●青森県教育委員会教育長賞　青森市立浦町小学校　5年　木村　倫都
「田んぼアートとぼく」

田んぼアートが見える展望台に登った倫都さんと横に並んで見えるモナリザはとても優しい表情をしていて、様々な稲穂を使い分けて描かれた髪の毛や顔、背景など調和のとれた色彩で表しています。

また、田んぼアートの右側にある道路と左側に接した田んぼは遠くにいくほど狭くなり、遠方の家屋やビニールハウスは小さく描き、奥行きを巧みな遠近法で表現した素晴らしい作品です。

●青森県農協中央会会長賞　八戸市立白銀南中学校　1年　松家　杏実
「みんなでご飯」

教室で給食のご飯を楽しく食べている様子を見事な画面構成の工夫と明るい色調で表現した優れた作品です。コロナ禍の中、同じ方向を向いて食べる様子が昨今の現状を表しているように思えますが、一人ひとりの表情は、明るく、給食の美味しさがよく伝わってきます。

バランスのとれた人物の配置、箸の持つ手の表現、机の立体感など細部にわたって丁寧に描いた力作です。

青森児童美術研究会
理　事　中谷　則子

コロナ禍も3年目ですが、再開された祭りや行事などもあり、題材も少しずつ広がってきました。応募校数も近年になく多く大変嬉しく思いました。子ども達の頑張りと先生方の熱心な指導に敬意を表します。

家族や友達または一人で食べたごはんの絵には、その時々の忘れられない思い出が上手に表現されていました。美味しいごはんを食べることの出来る幸せを感じさせてくれました。

田植えや稲刈りなどの体験したことを頑張って表現した絵からは、収穫への期待や感謝の気持ちが伝わってきました。

心を込めて頑張って表現した絵には、喜びと感動が溢れています。明るく楽しく心豊かな絵を今後も期待します。

●青森県知事賞　八戸市立西白山台小学校　3年　田村　唯
「ドライブではいつもおにぎり」

車の中でのみんなのおしゃべり、美味しいにおいまで伝わる明るく楽しい絵です。一人ひとりの動きや表情がとてもていねいに描かれています。特別大きくはないけどとても美味しそうなおにぎりが目立っています。色使いもとても上手です。

●青森県教育委員会教育長賞　青森市立浦町小学校　5年　木村　倫都
「田んぼアートとぼく」

3年ぶりに観覧できるようになった田んぼアートで実際に見たときの感動を上手に伝えています。モナリザの優しい表情がとてもいいし、その大きさを表すための工夫が見事です。新鮮な題材で色の使い方も巧みで素晴らしいです。

●青森県農協中央会会長賞　八戸市立白銀南中学校　1年　松家　杏実
「みんなでご飯」

コロナ禍の影響を受け引き続いての黙食ですが、とても表情豊かな作品に仕上がりました。箸や茶碗を持つ手が上手に描けています。焦げ茶色の床と白色の服や壁などの対比が清潔感を表現しています。明るく楽しい雰囲気が伝わる絵に仕上がりました。